

弘前大学

國史研究

第155号

〔論文〕

弘前博覧会と青森の近代化
—その出品物を中心に—

近代青森県を描いた吉田初三郎と今純三
—二人が描きたかったものは何か—

〔研究ノート〕

大石武学流発祥についての一考察

〔研究余録〕

弘前藩における葡萄酒の醸造について
—「国日記」に見える最古の記録—

二枚の絵は誰が描いたのか
—青森開港及開市二百八十年
祝賀会記念「青森市全図」

〔書評〕

兼平賢治著
『家からみる江戸大名』南部家—盛岡藩—

浪川健治著
『時疫』の社会史—18—19世紀の病と人間—

上條 信彦
1

中園 美穂
21

小石川 透
39

福井 敏隆
57

工藤 大輔
62

大藤 修
71

平野 哲也
77

— 彙報 —

◎弘前大学國史研究会例会を左記の通り開催した。

第一〇一回（①はオンライン、②は対面で実施。）

①福井 誠希氏「旧制弘前高等学校時代の太宰治

— 在校当時の生徒管理と関連して —

②前川原快斗氏「武家系図をめぐる大名家と公家

— 延宝年間の津軽家系図改変を事例に —

令和五年七月二十九日（土） 弘前大学人文社会科学部視聴覚ルーム

◎令和四年度第三回弘前大学國史研究会役員会を、令和五年八月二二日

（火）に開催し（オンライン会議）、令和五年度大会・総会の内容について検討した。

◎令和五年度弘前大学國史研究会大会を、令和五年一〇月九日（月・祝

日）、弘前大学創立五〇周年記念会館岩木ホールで開催した。初めてオンラインと対面のハイブリッドで実施した。

講演は左記の通りである。

「將軍御成・老中招請にみる幕藩関係」

高岡の森弘前藩歴史館主事兼学芸員 池ノ谷匡祐氏

「藩政と『関所』運営」

弘前市立博物館主事兼学芸員 工藤 正智氏

その後、弘前大学國史研究会総会を開催した（対面実施）。会務・活動報告、会計監査・会計報告が行われ、承認された。

（HT）

『弘前大学國史研究』投稿規定

◎論文 四百字詰 60枚程度を原則とする（縦書き、以下同様）

◎研究ノート 四百字詰 20枚から30枚程度

◎研究余録 四百字詰 10枚程度

◎史料紹介 四百字詰 10枚から30枚程度

◎その他（書評・研究動向・歴史随想など） 四百字詰 10枚から20枚程度

◎パソコン等による執筆は、32字×23行×2段で組んで下さい。本文と図版は別のファイルにし、図版の挿入箇所及び大きさ等を本文中に明示して下さい。（投稿申込者には、原稿雛型と執筆要項をお送りいたします。）

◎横書き原稿を希望する時は、あらかじめ本会へご相談下さい。

◎原稿締切 一月末と八月末の年2回

投稿申込は原稿締切の1ヶ月前までに事務局に申し込んで下さい。事務局のメールアドレス hirodaiokushi@gmail.com

※投稿に際しては、図表を最小限におさえ、完成原稿をお願いします。また、原稿は必ずお手元でコピーをとって保存しておいて下さい。投稿は本会会員に限ります。

※掲載については、原稿を受領後、編集担当者会議で審査し、審査終了後にご通知します。なお、文中に掲載許可を必要とする写真・図版等を含む場合には、掲載決定後、著者の責任において権利者から許可の承諾書を取得して下さい。

※掲載された論文等については、原則として弘前大学学術情報リポジトリで公開します。公開許可を必要とする写真・図版等を含む場合には、リポジトリ公開についても、著者の責任において権利者からの許可手続きを行って下さい。

※掲載分の論文等については、PDFまたは抜刷30部をさしあげます。

※本誌掲載の論文等を転載する場合は、本会の了承を得て下さい。

令和五年十二月三十日

弘前大学 **國史研究** 第一五五号

036-8560 弘前市文京町一番地

弘前大学教育学部日本史研究室内

編集者 弘前大学 **國史研究会**
発行者

振替口座 ○二三〇〇一―六三四番